



～地域包括ケア病棟から地域をデザインする～

発行元：地域包括ケア病棟“彩り”・リハビリ科・地域医療連携室

地域包括ケア病棟“彩り”で受け入れた事例の紹介（第35回）

～ 食生活は大丈夫？ ～

4月に恥骨骨折で下肢疼痛、歩行困難のある方が地域包括ケア病棟に入院しました。鎮痛薬処方とリハビリテーションで疼痛、歩行困難とも約1ヶ月で改善を認めましたが、入院中の血液検査でビタミンB1、B12が基準値よりも低下していました。認知症や歩行障害のリスクになるため、ビタミン製剤を開始。その後の血液検査で基準値内に改善し、5月末に自宅退院されました。

*

高齢者や認知機能障害を疑う入院患者に関してビタミン系の測定を行うことがあります。これまで高齢のレスパイト入院患者でビタミンB1、B12の低下が複数例確認されています。高齢者は食事摂取量の低下からビタミンが不足になりがちで、特に大酒家や消化器疾患のある方は要注意です。最近物忘れが



強くなった、易怒性など感情面が不安定になった、歩行困難などADLが落ちてきたことに気づいたとき、食生活に問題がないか注意してください。ビタミンを補充することで元気を取り戻すことがありますので、気になる方は一度かかりつけ医にご相談ください。（脳神経内科 部長 大島 洋一）



問い合わせ件数が増えています。

～ 引き続き、よろしくお願いします ～

地域の皆さんから、日々、地域包括ケア病棟“彩り”ご入院についての問い合わせを頂戴しています。ありがとうございます。忍者のように素早い対応を心がけて参りますので、引き続き、よろしくお願いします。（中野・中嶋）

地域の皆様から頂戴したご意見・ご要望について その⑤

地域のケアマネジャーの皆様や訪問看護ステーションの皆様のところへ訪問させて頂いた際、頂戴したご意見・ご要望と改善策をお知らせします。

レスパイト入院でも、紹介状や在宅サマリーなどの情報提供は必要ですか？（ケアマネジャー）

地域包括ケア病棟“彩り”では受け入れに際し、かかりつけの先生方からの医療情報、訪問看護師の方からの看護情報、ケアマネジャーの方からの生活・介護情報などを事前に頂戴し、受け入れ後の目標設定や支援内容について検討した上で、受け入れさせて頂いております。主旨をご理解の上、情報提供にご協力頂きますようお願い致します。（地域医療連携室 主任 中嶋 庸介）

老健やましろ 通所リハビリについて

～ ご紹介ください ～

現在、老健やましろでは、通所リハビリの利用促進に力を入れています。利用をご希望の方がおられましたらご紹介下さい。(地域医療連携室 室長 南出 弦)

*



リハビリ科セラピスト

理学療法士 (PT)、作業療法士 (OT)、言語聴覚士 (ST) のいずれかのセラピストによる個別訓練が20分 (1単位) を受けることができます (STによる訓練は火曜日午後のみとなります)。セラピストよりご家族の介護に関する相談にも乗らせて頂きます。

(老健やましろ 主任 通所リハビリ担当 古川 桂子)

*

連絡先：0774-73-0359 (担当：古川)

※ 老健やましろでは、ショートステイの受け入れも行っております。お気軽にお問い合わせ下さい。

夏期休暇中の受け入れのご案内

地域包括ケア病棟“彩り”では、夏期休暇のため、一時的に在宅医療が途切れる場合などに受け入れをさせて頂いております。お気軽にお問い合わせください。

電話：0774-73-1818 (担当：中野・中嶋)

地域医療連携室より

～ Help ～

先日、救急で受診された患者さんが受診後、そのまま入院となりました。患者さんはお一人暮らしです。他県にお兄さんがおられるとのことでしたが、すぐに病院に駆けつけることが難しいとのこと。幸い、患者さんご本人はコミュニケーションが取れましたので、ソーシャルワーカーが当院でこの3月から採用しているCS (ケア・サポート) セットの申し込みの手伝いをし、また、同意を得た上で、限度額適用認定証申請の手続きを代行するため、市役所へ行きました。

我々の仕事は、ここまで、と一律に線を引くことがとても難しいのですが、いつも、できる範囲のことはしてあげたいという気持ちで取り組んでいます。もちろん、地域の皆さんも同じようなお気持ちで日々の業務をされていることと思います。

その患者さんは現在も当院に入院中なのですが、高齢化や過疎化などを背景として、このような身の回りの細々とした、でも大切な業務が増えるのではないかと考えています。我々がこのようなお手伝いをすることで、患者さんが治療に専念でき、元気に退院されることを願っています。

(地域医療連携室 室長 南出 弦)